

小田原市教育委員会定例会会議録

1 日時 平成23年7月28日(木)午後7時00分～午後9時30分

場所 小田原市役所 全員協議会室

2 出席した教育委員の氏名

1番委員 山田浩子

2番委員 前田輝男 (教育長)

3番委員 桑原妙子 (教育委員長職務代理者)

4番委員 和田重宏 (教育委員長)

5番委員 山口潤

3 説明等のため出席した教育委員会職員の氏名

教育部長 三廻部 洋子

文化部長 諸星 正美

教育部副部長・教育総務課長事務取扱 佐藤 富朗

文化部副部長 奥津 晋太郎

教育指導課長 西村 泰和

指導・相談担当課長・指導係長兼相談係長事務取扱 榎畑 寿一朗

生涯学習課長 高橋 幸男

文化財課長 加藤 裕文

教育指導課指導主事 田中 修

教育指導課指導主事 奥村 真佐美

教育指導課指導主事 菴原 晃

(事務局)

教育総務課副課長・総務係長事務取扱 阿部 祐之

教育総務課主任 井上 晃輔

4 議事日程

- 日程第1 議案第22号 小田原市学区審議会委員の委嘱について (教育総務課)
- 日程第2 議案第23号 特別支援学級で使用する教科用図書の採択について
(教育指導課)

5 報告事項

- (1) 学校における大規模地震への対応の見直しについて (教育総務課)
- (2) 9月補正予算について (教育総務課、生涯学習課、文化財課)

6 協議事項

- (1) 教育委員会事務の点検・評価(案)について (教育総務課)
- (2) 平成24年度使用中学校教科用図書の採択に向けての協議について
(教育指導課)

7 議事等の概要

- (1) 委員長開会宣言
- (2) 会議録署名委員の決定…山田委員、前田委員に決定
- (3) 日程第1 議案第22号 小田原市学区審議会委員の委嘱について
(教育総務課)

提案理由説明…教育長、教育部副部長

前田教育長…それでは、議案第22号「小田原市学区審議会委員の委嘱について」を御説明申し上げます。学区審議会委員につきましては、学区審議会設置に伴う委嘱でございます。細部につきましては、所管から御説明申し上げます。

教育部副部長…それでは、私から議案22号の「小田原市学区審議会委員の委嘱について」を御説明申し上げます。

小田原市学区審議会は、市立小学校及び中学校の通学区域の設定及び変更に関する事項について、教育委員会の諮問に応じて調査審議するための機関であり、地方自治法上の附属機関でございます。

今回、片浦小学校における小規模特認校制度の実施につきまして、3月に片浦地区自治会連合会、片浦小学校PTA及び片浦小学校の連名で要望

書が市長及び教育委員会あてに提出されたことを受けまして、現在、要望書に沿った方向で対応していきたいと考えております。片浦小学校の通学区域の変更について、教育委員会として小田原市学区審議会に諮問し、審議していただきたいと考えております。

諮問内容といたしましては、片浦小学校の通学区域を市内全域とする「片浦小学校の通学区域の変更」と、片浦小学校に小規模特認校制度を利用して在籍した児童につきましては、中学校進学の際、一定の条件のもと、城山中学校への指定変更を認める「指定変更許可基準の変更」の2点を予定しているところでございます。

また、第1回審議会を8月10日に開催し、10月中旬までに3回の開催を予定しております。学区審議会の答申を受けました後、教育委員会で議論いただきたいと存じます。

審議会委員につきましては、小田原市学区審議会規則により、公募による者、市立小学校及び中学校の校長代表、市立小学校及び中学校のPTA代表、住民組織の代表、学識経験者で構成することとなっております。なお、一般公募委員については、6月17日から7月15日まで募集いたしまして、選考の結果、お手元の資料にございますように、宮原氏、廣井氏の2名にお願いしたいと考えているところでございます。また、小中学校長の代表につきましては校長会から、PTA代表につきましては小田原市PTA連絡協議会から、また、住民組織の代表につきましては、小田原市自治会総連合からそれぞれ御推薦いただきました。学識経験者につきましては、学区制度の専門家であり、前回、片浦中学校閉校の際の学区審議会でもお願いしました葉養氏と、平成11年から16年まで本市教育委員会教育長でいらした江島氏にお願いをしたいと考えております。

以上のとおり、各氏におかれましては、学区審議会委員として適任と思われるので、委嘱いたしたく提案するものでございます。

(質疑・意見等なし)

採決…全員賛成により原案のとおり可決

(4) 日程第2 議案第23号 特別支援学級で使用する教科用図書の採択について
(教育指導課)

提案理由説明…教育長、教育指導課長

前田教育長…それでは、議案第23号「特別支援学級で使用する教科用図書の採択について」を御説明申し上げます。特別支援学級における教科用図書の採択については、「学校教育法附則第9条」により、1年毎に採択することになっております。細部につきましては、所管から御説明申し上げます。

教育指導課長…それでは、「特別支援学級で使用する教科用図書の採択について」御説明申し上げます。

特別支援学級においては、特別な教育課程による場合において、通常級で使用する教科用図書を使用することが適当でない場合には、「特別支援学校用（小・中学部用）教科書目録（平成24年度使用）」及び「平成24年度用一般図書一覧（附則第9条図書）」の2種類の中から使用することが出来るようになっております。この学校教育法附則第9条の規定による教科用図書の採択につきましては、毎年採択することとなっております。各学校が、児童・生徒の実態に応じて選択した図書を教科書として採択するものとなっております。

今年度採択していただく「平成24年度使用学校教育法附則第9条による教科用図書採択一覧」は約200冊となっております。この一覧は、各学校の特別支援学級の担当者が、それぞれの学校の特別支援学級に在籍する児童・生徒の個性や発達段階、障がいの度合いなどを考慮しまして、「その子にあった最適な教科書は何か」という視点で選んだ教科書の一覧となっております。その選ばれた教科書を発行者ごとにまとめたものが1ページから8ページのもので、9ページにつきましては、特別支援学校用の教科書として文部科学省が作成した「教科書目録」の中にあるリストから選ばれたものです。

各学校から希望が出された教科書リストにつきましては、教育委員会事務局の教育指導課において精査し、特に問題はないというこ

とを判断し、この一覧表を作成しております。

中学校用の教科書の採択と同様に、特別支援学級用の教科書につきましても教育委員の皆さんでの採択となりますので、御審議のほど、よろしくお願いいたします。

(質疑・意見等なし)

採決…全員賛成により原案のとおり可決

(5) 報告事項 (1) 学校における大規模地震への対応の見直しについて

(教育総務課)

教育部副部長…それでは、「学校における大規模地震への対応の見直し」につきまして、その概要を御説明させていただきますので、お手元の資料を御覧いただきたいと存じます。

本件につきましては、6月の教育委員会の臨時会におきまして、3月11日の東日本大震災以降、各小学校が広域避難所に指定されている状況等を踏まえまして、小・中学校における地震対応マニュアルである「学校における大規模地震への対応」について見直し中である旨、御報告させていただきましたが、内容が確定しましたので、見直しの概要につきまして改めて御報告させていただくものでございます。

まず、1番目の職員の初動体制についてですが、小田原市において震度5弱の地震が発生した場合には、最低2人以上の職員が登校して施設の点検を行うことといたします。また、5弱の場合でも被害が甚大であるときや小田原市の震度が5強以上の場合につきましては、正規職員全員が登校することといたします。

次に、2番目の地震・津波への対処についてですが、地震が発生した場合、津波の被害が想定される学校では、強い揺れや周期の長い揺れを感じましたら、揺れが収まった後に直ちに近くの高台、校舎等の鉄筋コンクリートの建物の出来るだけ安全な階に一時避難させることといたしまして、その後は津波に関する情報を確認し、津波・大津波警報発令中は児童生徒

をそこに待機させることといたしたいと考えております。

次に、3番目の地震発生後の対応についてですが、小学校においては学校において保護者等に引き渡すことといたしまして、中学校においては教職員が一定の場所まで引率して集団下校することとし、特別に配慮を要する生徒につきましては、学校での引き渡しも可といたしたいと考えております。ただし、保護者の不在や帰宅路の被害等により帰宅が困難である児童生徒につきましては、学校において保護することとしたいと考えております。

また、児童生徒の在宅中の場合に地震が発生した場合には、学校施設や登下校時における児童生徒の安全が確保出来ると判断されるまで、自宅待機とすることを基本とし、自宅待機とした場合のその後の対応につきましては、教育委員会と学校とで協議の上決定することといたしたいと考えております。

なお、資料の2枚目以降は実際のマニュアルでございます。改正部分には下線を付してありますので、後ほど御覧いただきたいと存じます。さらに、資料の後ろに別にホチキス止めをしたものを添付してございますが、これは教育委員会から各学校宛てに通知をしたものでございまして、今回のマニュアルの見直しを踏まえ、各学校に対して改めて防災計画の見直しと、大規模地震等が発生した場合の対応について、保護者宛てに通知をするよう、教育委員会でモデルを提示した上で作成を依頼したものでございます。

説明は以上でございます。よろしく願いいたします。

(質 疑)

和田委員長…特に質疑はないようですが、先日の大震災の直後でもございますので、このようなマニュアルの整備について検討いただき、子どもたちの安全がより一層守られる小田原市であって欲しいと思います。

(その他質疑・意見等なし)

(6) 報告事項 (2) 9月補正予算について (教育総務課、生涯学習課、文化財課)
教育部副部長…それでは、9月補正予算につきまして、教育部より御説明させていただきます。

この件につきましては、来月の定例会で改めて詳細を説明させていただきますが、来月定例会の日程が9月市議会の議案発送と重なり、教育長による事務の臨時代理となることから、現時点での予定ではございますが、今回簡単に御説明させていただくものでございます。

まず、「新しい公共の場づくりのためのモデル事業」につきまして御説明させていただきます。これは、国の内閣府が設けました「新しい公共支援事業」の交付金をもとに、神奈川県が県内のNPO等を対象に23、24年度の2カ年にわたるモデル事業として公募をしたものでございます。これに「食とエネルギーの自給」をテーマとして、NPO法人子どもと生活文化協会が「旧片浦中学校食とエネルギーの地産地消プロジェクト」の申請をいたしたところでございます。

7月8日に申請をいたしまして、去る20日には公開審査が行われました。近日中に事業の採択等が決定する見込みでございますが、対象予算といたしましては100万円以上で1,000万円が上限となっております。仮に採択されました場合には、平成23年度は現時点の見込みでは約400万円、24年度は約600万円を補助金として、市を通じてNPO法人に支出する形になろうかと思っております。

続きまして、学校、幼稚園の施設関連でございますが、今回の9月補正予算では、震災等で被災を受けました「受水槽復旧事業」、先ほども防災の話が出ましたが、そのあたりに関連した「屋上フェンス整備事業」、従来から課題があります「学校施設改修事業」、「幼稚園空気清浄機整備事業」及び地権者の方の相続が発生したことに絡みます「下中小学校用地取得事業」を予定しております。

まず、「受水槽復旧事業」でございますが、3月11日に発生した東日本大震災の影響等により、市立学校施設の7箇所において受水槽の破損がございましたため、小学校3校、中学校4校につきまして、国の補助金及び県の交付金を財源に、復旧を行いたいと考えております。

また、「屋上フェンス整備事業」につきましては、津波から子どもたちや地域住民の方を守ることを目的に、県の交付金を財源に、海拔が低く、近隣に高い避難場所のない学校の屋上を対象に、転落防止用のフェンス等を整備したいと考えております。

次に、「学校施設改修事業」でございますが、こちらも県の交付金を財源に、小中学校・幼稚園において老朽化している改修要望箇所を中心に、学校施設の改修を行いたいと考えております。

また、「幼稚園空気清浄機整備事業」でございますが、幼稚園児のインフルエンザウイルス等からの予防策といたしまして、保育室及び遊戯室等に、空気清浄機を整備したいと考えております。

「下中小学校用地取得事業」につきましては、先ほど御説明した通りでございます。

なお、これらの件につきましては来月 11 日に最終的な市長等の査定がございますので、申し訳ございませんが、あくまでも現時点での見込みということで、確定した段階で改めて御説明させていただこうと考えております。以上でございます。

生涯学習課長…続きまして、生涯学習課関係の 9 月補正予算として 2 件を予定させていただいておりますので、御説明させていただきます。

初めに、お手許の資料の 2 ページ、「穴部新田公民館建設費補助金について」を御覧いただきたいと存じます。

既設の穴部新田公民館は、昭和 45 年 7 月に建設された木造平屋建て床面積 70.2 m²の建物でございますが、建設後 40 年を経過し、かなり老朽化が進んできたことから、今回、コミュニティセンター助成事業を活用して建替えるものでございます。

この補助金につきましては、財団法人自治総合センターが実施しております「宝くじ普及広報事業」の一つとして認定されるもので、この補助金につきましては、助成事業の申請者である小田原市として歳入した後、当該公民館を管理する穴部新田自治会に交付するものでございます。3 ページにつきましては、穴部新田公民館の位置図でございますので後ほど御覧いただきたいと存じます。

続きまして、資料の4ページを御覧いただきたいと存じます。「松永記念館改修基本設計等業務（案）」につきましてご説明いたします。

郷土文化館の分館である松永記念館につきましては、従来から、主に資料展示施設として活用しているところでございますが、国の登録有形文化財であります老櫓荘や葉雨庵、茶人としても知られる松永耳庵が作庭した由緒ある庭園等もあることから、清閑亭や小田原文学館等とともに、板橋・南町等を中心とした中心市街地南西部における市民や観光客らの回遊・交流の拠点等として整備するなど、より幅広い活用を図って行こうするものでございます。

今回の業務は、こうした松永記念館の有効利用に向けた復元・改修等の内容について、図面等の作成によって、具体化し、今後、実際に整備工事を進める上での検討材料とするためのものでございます。

なお、当該業務は、6月定例会において報告されました「歴史的風致維持向上計画」の重点地域における施策・事業の一つでございます「松永記念館整備活用事業」の一部として位置付けられております。5ページにつきましては、松永記念館の見取り図でございます。

以上をもちまして、生涯学習課関係の平成23年9月補正予算要求予定について、説明を終わらせていただきます。

文化財課長…それでは最後に、文化財課関係の9月補正予算として予定しております「国登録有形文化財「清閑亭」改修計画策定業務」につきまして、御説明させていただきますので、資料6ページを御覧いただきたいと存じます。

国登録有形文化財の「清閑亭」につきましては、建物の老朽化・劣化が進んでおります。今後、建物を活用していくためには計画的な維持・管理を行っていく必要がございますので、敷地測量や図面作成などの現状調査を行うとともに、その成果をもとに「清閑亭」建物の活用基本方針や、改修・補強計画を策定するための業務に要する経費につきまして、文化財保存活用経費として予算計上する予定でございます。この事業は前回の定例会において御説明いたしました「歴史的風致維持向上計画」に位置付けられた事業でございます。財源の2分の1につきましては国庫補助金である「社会資本整備総合交付金」を歳入として計上する予定でございます。

松永記念館の業務につきましても同様の予定でございます。

「清閑亭」の概要につきましては資料7ページを御覧いただきたいと存じます。「清閑亭」は平成20年1月に史跡小田原城跡三の丸外郭清閑亭土塁」として取得いたしました土地に建てられておりました建物で、貴族院副議長であった黒田 長成が別荘として明治末期から大正初期に建設したものでございます。

以上をもちまして、9月補正予算に計上を予定しております事業等の説明を終わらせていただきます。

(質疑・意見等なし)

(7) 協議事項 (1) 教育委員会事務の点検・評価(案)について (教育総務課) 教育部副部長…それでは、「教育委員会事務の点検・評価(案)について」を、御説明いたします。資料4の目次を御覧いただきたいと存じます。

この報告書では市の総合計画をもとに、平成22年度の主要な事務事業を「学校教育の充実」から「生涯スポーツの推進」までの7つの項目に分け、それぞれ点検・評価を行ったものでございます。

具体的な内容を御説明いたしますので、8ページの「1 学校教育の充実」を御覧いただきたいと存じます。7つの項目それぞれに目標を設定いたしまして、その目標を達成するために行いました「取組の内容」から構成されています。

9ページを御覧いただきたいと存じます。「取組の内容」の詳細でございますが、平成22年度に実施した事務・取組の「目的」や「実施状況の点検」について記述しております。また、今年度は「昨年度の学識経験者の意見」を新たな項目に加え、前年度の点検・評価の際に学識経験者から出された意見の反映状況等が分かるようにいたしました。

11ページを御覧いただきたいと存じます。重点的に取り組んだ事業につきましては、「重点的な取組」の項目を設定して、事業ごとに評価を行うとともに、課題や今後の展開、改善点等について記したものでございます。

なお、今後の点検・評価の作業スケジュールにつきまして御説明申し上げ

げますが、8月4日に学識経験者の方々に御意見を伺い、その御意見を報告書に反映させるなどの修正を加えながら完成させる予定でございます。また、その後、8月25日の教育委員会定例会において最終案をまとめさせていただき、9月の小田原市議会へ提出する段取りとなっております。

御意見を伺う学識経験者につきましては、資料の1ページの下段に記載いたしました。昨年度に引き続き文部科学省国立教育政策研究所 教育政策・評価研究部長の葉養 正明氏、関東学院大学法学部 准教授の鈴木みゆき氏にお願いいたします。また、小田原市PTA連絡協議会から会長の井上 義行氏をご推薦いただき、お願いいたしましたところでございます。

本日は、時間の関係もあり、十分な御協議がいただけないと思いますので、御意見がございましたら後日でも結構でございますので改めて御連絡いただければと思います。

以上で説明を終わらせていただきます。

(質疑・意見等なし)

和田委員長…それでは、事務局からも説明がございましたが、よくお読みいただき、御意見がございましたら後ほどでもお寄せいただければと思います。

(8) 協議事項 (2) 平成24年度使用中学校教科用図書の採択に向けての協議について (教育指導課)

和田委員長…次に、協議事項(1)「平成24年度使用中学校教科用図書の採択に向けての協議について」の説明を事務局に求めます。

教育指導課長…それでは、協議事項(2)「平成24年度使用中学校教科用図書の採択に向けての協議について」御説明申し上げます。

前回の25日実施の臨時会では、国語、書写、数学、理科、音楽一般、音楽器楽、美術、の7種目について協議をしていただきました。本日も教科ごとに2社～3社に絞り込みをお願いいたします。最終的に、小田原市の生徒に最も相応しい教科書を、教育委員の皆様が採択権者として次回8

月12日の臨時会において、絞り込んだものから1つに絞り、採択していただきます。

本日は、地理、地図、歴史、公民の社会科の4種目を先に行い、そのあとに、保健体育、技術、家庭、英語の順で協議をしていただきます。

前回と同様に、県教育委員会作成の「平成24年度使用中学校教科用図書選定に係る調査研究資料」と小田原市の調査員が作成した「平成24年度使用中学校教科用図書調査研究報告」、及び教育委員の皆様が独自に調査研究していただいたものをもとに協議していただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

①種目 地理

和田委員長…25日に引き続いて、今日は地理の教科書から協議していきます。前回協議出来なかった保健体育、技術、家庭、英語については、社会科の協議をした後に行うこととします。では地理について、採択するにあたっての協議の観点をいくつかお願いします。

前田教育長…地理の協議の観点といたしましては、世界や日本の国土に対する認識を一層深め、地域的特色を捉えるための視点や方法を身につけさせることとあります。世界の諸地域については、6つの州をそれぞれ生徒の生活や関心と結びつきやすい主題を設けて扱い、日本の諸地域については、7つの地域の特色をそれぞれ地域の中核となる事象を出発点に、他の事象と関連させ考察させる学習をすることとなっております。

和田委員長…それでは委員の皆さんからのご意見を伺いたいと思います。いかがでしょうか。

山口委員…日本の地域のことを中心に見ていたのですが、どの教科書も見ていて面白いです。それぞれ特徴があるのですが、東京書籍と日本文教出版は、人口や面積などといったそれぞれの地域の特徴が、同じ体裁で最初のページに載っていました。それによって、各地域を比べる時に分かりやすくなっていました。

また、とてもよかったと感じたのが、先ほども学校の防災についての話がございましたが、帝国書院では「あなたならどうする」というコーナー

で、ハザードマップを使って、実際に地震が来た時にはどういったことに気をつけるべきなのか、星印が付いた場所からはどの避難所にどの経路で行ったら良いのかを自分たちで考えさせていました。これは学校だけではなく家でも活用出来るかなと思いました。たまたま現在がそういった時期だということもあるのかも知れませんが、とても良い試みであると感じました。

その他には、日本文教出版では特集の部分で「ヒートアイランドとゲリラ豪雨」といった、昨年、随分と問題になっていたことが載っており、面白く読ませていただきました。

教育出版もとても良く出来てはいたのですが、関東地方の部分の最後で、近畿・中部・関東を一つのエリアとしてまとめて問題に答えさせていました。近畿・中部・関東を一つにまとめるのは少し広過ぎたかなと感じました。

前田教育長…山口委員の意見に関連しまして、帝国書院では「あなたならどうする ハザードマップから防災を考えよう」ということに加えて、もう一つ「チェック&トライ」というコーナーでも、自分の住んでいる地域の災害の歴史を調べたり、行政の対応を調べたりする活動がありました。身近な話題から問題解決能力を培うことが出来ますし、それをレポートにまとめて発表し合うことで言語活動の充実にも繋がると思います。

実際に、先日に地震や津波が発生した後に、市内の酒匂地区や小八幡地区などでは地域の災害の歴史を調べたりしていましたので、この点は良いと思いました。

桑原委員…日本文教出版では「地域の行事に参加しよう」ということで、教科書だけではなく実際に行事に参加するという部分があり、他の教科書とは少し違う部分だと思いました。

東京書籍では原子力の事故の発生を恐れて、安全性を重視しようといったページがあり、現在であったら他社も含めてもっと大きく扱うのかなと思いました。

教育出版は巻末に用語解説がありまして、色々な用語を解説してあるので生徒にとっては学習しやすいと思いました。また、地図をただ見ている

だけではなく、それを活用してチャレンジしようといった試みが見開きの部分にありまして、それも良いと思いました。

山田委員…私は比較するにあたり、オーストラリアの部分を調べました。それぞれ説明があり、地図やアボリジニや歴史などが載せてあったのですが、帝国書院では「なぜ多文化社会に進んだのか」など掘り下げている部分がありました。また、教育出版でも一歩踏み込んで、「白豪主義から多文化主義への転換」、「アボリジニとの和解」、「日本との関わり」などを記してあるところが評価出来ると思いました。また、巻頭の「地理の学習を始めよう」といったコーナーで、丁寧な優しい言葉で地理を学ぶ意義や大切さが述べられている点が、子どもたちが入りやすいのではないかと感じました。

和田委員長…帝国書院の第1部の「世界のさまざまな地域」で、「よりよい社会に向けて」、「日本の底力」というコーナーを設けて、フェアトレードや新幹線の技術を取り上げ、日本と世界の関係や繋がりが分かるようにしているようにしている点がとても評価出来ると思いました。それは同じ様な構成で第2部の「日本のさまざまな地域」でも載っており、学びやすいと感じました。

教育出版については他の委員の方が仰っていた部分と重複しますので詳しくは申し上げませんが、「地域おこしの知恵」という部分で、過疎対策の新しい産業として、高知県の馬路村のゆずと、徳島県上勝町のつまものビジネスを載せており、日本が抱える、どの地域にでも起こり得る高齢化の問題を取り上げている点は先見の明があったのではないかと評価出来ます。

前田教育長…4社ともに子どもや教師のキャラクターが出て来るのですが、教育出版は小学校で一緒に学んで来た4人のキャラクターが、同じ名前でも中学生に成長した姿となって問題提起や追及をして行きます。そのような配慮は嬉しいと思いました。

また、原子力問題を取り上げているのは、教育出版が「地域から世界を考えよう」の単元で、原子力発電と環境問題について、ヨーロッパの例ですが取り上げています。また、資源エネルギーの消費と課題としても2ページにわたって取り上げています。

帝国書院も、「生活を支える電力」と「日本の発電所と新エネルギー」の単元で取り上げておりますし、東京書籍でも「日本の資源・エネルギーと

環境問題」の単元で扱っていますが、取扱いは小さいと感じました。

和田委員長…色々と意見が出ましたが、このあたりで候補を絞りたいと思いますがいかがでしょうか。

前田教育長…教育出版と帝国書院の評価が高かったように感じましたが、いかがでしょうか。

和田委員長…各委員の評価もその2社については高かったように感じます。それでは地理は、教育出版と帝国書院の2社を候補といたします。よろしいでしょうか。

(異議なし・全員賛成)

②種目 地図

和田委員長…では、次に地図帳について協議をします。地図は、東京書籍と帝国書院の2社です。採択するにあたっての協議の観点をお願いします。

前田教育長…地図の協議の観点といたしましては、調査活動の基礎的な資料となるとともに地理的な技能を身に付けさせることです。どちらの地図帳も、学習指導要領に沿って内容を提示しておりまして、基本図・部分図・資料図なども適切に配列されています。また、各種統計、資料は最新版を使い、生徒の発達段階に即しているように感じます。

和田委員長…それでは委員の皆さんからのご意見を伺いたいと思います。いかがでしょうか。

桑原委員…私が近眼なので大きいほうが良いという訳ではないのですが、帝国書院は、A B版という大きいサイズなので、とても見やすく、色も綺麗だと思いました。

山田委員…両方とも素晴らしいのですが、帝国書院は地図本来の目的を果たしているように思いました。比較しますと、帝国書院は日本の地形やプレートの境界などがクリアで分かりやすいと感じましたし、人口の部分では、東京書籍は「日本の人口分布」と「老年人口分布」が同じページにあるのですが、帝国書院はそれに加えて「世界の人口分布」や「日本における外国人の人口分布」など、色々と発展的に出来るように同じページに記しているところ

ろが想像力を書き立てる地図ではないかと思いました。

山口委員…どちらも資料も充実しており、とても良かったと思います。ただ、地図なので見たいところを探して行くのですが、比率としては帝国書院のほうが、縮尺率が大きいというか、拡大されているページが多いように感じました。その点が見やすさに差があると感じましたのと、全体を見て行く中で、東京書籍は世界全図において、日本が真ん中あたりにある図と、左右どちらかにずれているような図が混在していましたが、統一したほうが視覚に訴えやすいのではないかと感じました。

前田教育長…神奈川と小田原エリアに関するページについてですが、自然・産業・文化を含めて、帝国書院は主に4ページあったのですが、東京書籍は2ページでした。

また、細かい部分なのですが、巻末の統計部分で、小田原市の人口が載っているのですが、帝国書院と東京書籍で数が違っておりました。7月1日現在の小田原市の人口は約19万8千人なのですが、帝国書院は19万9千人、東京書籍は19万7千人となっております。少しずつ人口が減っている現状からも、帝国書院のほうが正確さがあるかなと思いました。

和田委員長…地図の印刷については帝国書院のほうが見やすいように感じました。随所に資料図が載っておりますが、あくまでも地図を基にして、地図にこだわった資料であり、地図帳として非常にすっきりしていたように思いました。

山口委員…関連しまして、帝国書院は地図があって巻末に資料がまとまっているのですが、東京書籍は巻末の資料だけでなく、地図と資料が混在している部分があり、資料を見るのにページを何回もめくらなければならないことがありました。資料集ではなく地図帳なので、その部分はどうかなと感じました。

和田委員長…それぞれのご意見等を参考にして、今日は協議ですので、次回の8月12日の決定に向けて引き続き検討するというところでよろしいでしょうか。

③種目 歴史

和田委員長…では、次に歴史について協議をいたします。歴史は、東京書籍、教育出版、清水書院、帝国書院、日本文教出版、自由社、育鵬社の7社です。採択す

るにあたっての協議の観点をお願いします。

前田教育長…歴史の協議の観点として、まず歴史の改訂のポイントが、「我が国の歴史の大きな流れ」を理解することと、歴史について考察する力や説明する力を育成することであり、このような視点で協議をすると良いかと思えます。

和田委員長…それでは委員の皆さんからのご意見を伺いたいと思えます。いかがでしょうか。

山田委員…どの教科書も各時代の特色が良く捉えられるようにまとめられており、導入の仕方なども工夫が見られました。特に東京書籍や自由社は歴史の捉え方に関わる内容に最初に多くのページを使っており、時代や年代の表し方の定着が図られていると感じました。

前田教育長…関連しまして、東京書籍は序章を丁寧に取り扱っており、12ページ割いてありました。歴史の大きな流れに重点を置いて着目させるとともに、小学校での学習の流れも押さえた調べ学習の大切さを強調しているように思いました。

自由社につきましては、やはり序章の「歴史のとらえ方」に17ページ割いており、第4節の「地域の歴史を調べる」という單元では、「図書館で調べよう」や「現地に行ってみよう」といったことが載っていますが、歴史学習の導入部分でとても大切なことだと思います。さらに、「調べた結果を発表しよう」という部分は、レポートの表現能力と、発表し合うといった言語活動にも繋がり、これも大切なことだと思います。

山口委員…歴史の流れについては、各時代の特色を捉えることで理解しやすくなると思えます。その特色を自分なりに理解し、自分の言葉で表現出来るようになると、理解が進んでいるのではないかと考えるのですが、その点で、教育出版と帝国書院は見開き2ページで学習した内容について、それぞれ「トライ」、「チェック&トライ」で簡単な質問と、それを自分の言葉でまとめるような項目が用意されており、また、章の終わりに、時代の特色について自分の言葉で表現出来るような内容になっているところは、歴史という教科を嫌いにならずに勉強させていくということには役立つのではないかと思います。

前田教育長…関連しまして、各章の終わりに学習のまとめをするということで、教育出

版では各章の終わりに時代の特色を捉えるというところを工夫されています。「学習のまとめと表現」というコーナーが3ページにわたって設けられているのですが、そこでは年表や写真、地図などが立体的に一目で特徴が捉えられるように工夫されていると感じました。また、自分の言葉で表現してまとめて、友だちと意見交換が出来るように言語活動や関係力にも配慮されているように感じました。

また、帝国書院は各章のまとめとして「タイムトラベルのレポート」という、時代の様子を整理して説明しようといったコーナーがありました。これも、年表や絵、写真、地図などが立体的にその時代のまとめとして載っており、イメージがされるよう工夫されていると感じました。

桑原委員…全ての教科書が伝統や文化に関する学習という面でとても充実していると思いました。私の時代と比べて今の子どもたちはとても幸せだと感じましたのが、全ての教科書がとても楽しく、勉強しやすく作ってありました。特に日本文教出版では折り込みで絵が書いてあり、内容もとても豊富で良いと思いました。

前田教育長…日本文教出版では、文化に関する観点からの写真や絵が充実していると私も思いました。

和田委員長…多角的・多面的に考察するためには、ある程度の資料の提示が必要ですが、中学生にとってどうなのかという視点が大切であると思います。東京書籍、教育出版、帝国書院、育鵬社の見出しタイトルとそれに繋がる写真や図版から考察するという工夫が目を引きました。特に東京書籍は、A B版で図版が大きく見やすいですが、図版と本文が少し込み入った感じがしました。

前田教育長…見出し、小見出しに関しましては、教育出版は小単元の見開き2ページのタイトルがスローガン形式といいですか、用語の引用等から付けられており、非常にインパクトがありました。例えば聖徳太子の政治の部分では「あつく三宝を敬え」や、国風文化の誕生の部分では「以呂波からいろはへ」、鎌倉幕府の部分では「御家人は団結せよ」、江戸の文化の部分では「読み・書き・そろばんの習い」、ロシア革命の部分では「パンと平和、民主主義を求めて」など凝ったタイトルが付けられていると思いました。

山口委員…育鵬社は見ていてとても面白いと感じました。ただ、大人として色々な知

識が増えて来た中で過去を振り返り、より細かく知っていくにはとても面白いと感じたのですが、まだ歴史を始めたばかりの中学生には、細かくし過ぎるとかえって分かりにくくなってしまわないかという危惧もありました。

前田教育長…育鵬社には「なでしこ日本史」というコーナーがその5までありました。推古天皇から紫式部、日野富子、天璋院、与謝野晶子などのエピソード・逸話・挿話が載っており、大人には非常に面白いと思いました。また、「読み物コラム」というコーナーの「THE 江戸時代」、「浮世絵の影響—ジャポニズム」などもとても面白かったです。「浮世絵の影響—ジャポニズム」では葛飾北斎の絵とドガの裸婦像、鈴木春信とモネの絵などの比較があり、なるほどと思わせる内容でした。

ただ、「読み物コラム」については全体の9%を占めており、また、ミニコラムも26箇所あり、「なでしこ日本史」や「歴史の名場面」を入れるとかなりの部分が囲み記事や著作者の短評欄等となっています。これも大人には面白いが、中学生には少し難しいかなという印象を持ちました。

また、自由社も優れた読み物が多く、読んでいて面白いのですが、見開き2ページのコラムが多過ぎると思いましたし、内容も中学生には少し高度だと思います。特に幕末・江戸期に多過ぎるような気がしました。コラムが全体で50ページ、約19%を占めているのも多過ぎるような感じました。

桑原委員…教育長の意見に関連して、自由社は古代の歴史の部分にページを非常に割いており、少しバランスに欠けているかなと感じました。

また、小田原に関連のあるものが載っていると子どもも興味を持つと思うのですが、教育出版には鎌倉や箱根関所の写真などがあり、なおかつ、日本と世界の動きを並列して掲載しているのが興味深く感じました。帝国書院にも鎌倉、横浜、中華街の写真と一緒に説明が載っており、こちらは「歴史人物カードを使ってみよう」ということで、ただの勉強だけではなく、楽しく学べる工夫がされていると感じました。日本文教出版では、解体された小田原城の写真や記述が掲載されており、それを知らない生徒にとっては興味を持てるのではないかと思います。二宮尊徳を扱っている

のは、自由社と育鵬社の2社だけでしたので、小田原とすると二宮尊徳はもう少し扱ってもらえると良いと思いました。

山田委員…見比べてみて、帝国書院の写真の色がとても鮮明で綺麗だと感じましたし、資料や地図がとても豊富で充実しているのですが、その割に見やすくなっていると思いました。また、表紙の裏に時代ごとに色分けした年表があるのですが、各単元のページ左端にも色分けした印があり、今勉強している時代がどの時代かということを常に分かるような工夫がされているところが良いと思いました。

また、「アジアと太平洋に広がる戦線」という章では、色々なコラムがあり、命のビザを発行した杉原千畝や、戦場となった沖縄、原爆で犠牲となった13歳の少女の日記やそれを看取った女性の記録など、戦争の悲惨さと平和の大切さを訴える資料が記してある点が評価出来ると思います。

前田教育長…年表の話が出ましたが、年表は大体は巻末にあるのですが、教育出版と日本文教出版には東日本大震災が載っていました。帝国書院は政府が地震発生当初に使っていた東北地方太平洋沖地震という名称で表記されていました。清水書院は2009年の政権交代、東京書籍は2008年の世界金融危機、育鵬社は2006年の教育基本法の改正、自由社は2003年のイラク戦争が最後でした。年表はきちんと更新して、なるべく新しいものにして欲しいと感じました。

桑原委員…あまり大きいことではないのですが、帝国書院では写真がたくさん載っているのですが、必ず中学生と一緒に写っているので、親近感が持てるかなと思いました。

和田委員長…教育出版では、「資料から歴史を探ろう」や「人物から歴史を探ろう」、「学習のまとめと表現」、「時代の変化に注目しよう」といった項目が必ず繰り返されていました。現在は関係性が分からなくなる混沌とした時代ですので、このように構造化されていることは物凄く学びやすいように感じました。その点では教育出版は教科書として良いと思いました。

和田委員長…色々と意見が出ましたが、このあたりで候補を絞りたいと思いますがいかがでしょうか。

前田教育長…難しいですが、比較的評価が高かったのが、教育出版と帝国書院の2社だ

と思いました。

和田委員長…それでは歴史は、教育出版と帝国書院の2社を候補といたします。よろしいでしょうか。

(異議なし・全員賛成)

④種目 公民

和田委員長…では次に、公民の教科書について協議をします。公民も、東京書籍、教育出版、清水書院、帝国書院、日本文教出版、自由社、育鵬社の7社です。採択するにあたっての協議の観点をお願いします。

前田教育長…公民の協議の観点として、公民の改訂のポイントを挙げますと「現代社会における文化の意義や影響に関する学習」や「法や金融などに関する学習」を重視し、現代社会を捉える見方や考え方の基礎を養うことです。

和田委員長…それでは委員の皆さんからのご意見を伺いたと思います。いかがでしょうか。

山口委員…私が習っている時代には「公民」というものはありませんでした。社会が分かれていても政治経済や倫理社会といったものしかなかったのですが、「公民」という言葉の意味について、教えていただけるとありがたいです。

前田教育長…7社の教科書を見ますと、まず、冒頭で述べているのは、東京書籍、清水書院、自由社、育鵬社です。公民について東京書籍は「現代社会に存在する様々な問題を人事ではなく自分のこととして受け止め、解決のためにどうしたらよいかを考えることのできる人間」としています。清水書院は「私たちが生きているこの社会のメンバー」とし、自由社は「私たちは日本という国家の公民、日本を支える公民」とし、育鵬社は「国のために何が出来るかを考え、行動する人」としています。

公民とはどんな人を指すか、というそのものの問いは立ててはいませんが、公民的分野の学習目的を述べているのは、教育出版、帝国書院、日本文教出版です。教育出版は「将来一人の市民として生きていく上でとても大切な知識や見方、考え方、社会へかかわり方を学ぶ」のが学習の目的と捉えています。帝国書院は、「現代社会の諸問題について、その事実を知

り原因を明らかにするだけでなく、人間らしく生きることの出来る社会の実現を目指す」学習をするといいます。日本文教出版は、「一人ひとりの人間がよりよく生きることのできる社会を築くのに必要な知識と知恵を学びとりながら、社会の働きに積極的に参画していく心構えを培うと表現しています。

山口委員…人としてのことを述べているのか、社会との繋がりを述べているのかが会社によって違ったので、「正しい公民」という言い方は少し違うかも知れませんが、どのような見方をすれば良いのかが少し分かりにくかったので、確認させていただきました。

和田委員長…今回の改訂において、現代社会についての見方や考え方として、「対立と合意」、「効率と公正」が示されていますが、東京書籍、教育出版、帝国書院、日本文教出版、育鵬社は、項目をたて、学習の導入期にその説明がされていました。

前田教育長…私は小見出しの表現を見ていたのですが、問題提起等がカラー枠で囲ってあり、字もゴシック太字で分かりやすいのは東京書籍、教育出版、帝国書院、育鵬社でした。また、清水書院はカラーではないのですが、ゴシック太字で見やすくなっていました。各社工夫していると思いました。

山田委員…東京書籍ですが、7社の中でこの教科書だけがA B版であり、見やすくなっていました。ページの上段に写真や資料、下段に文章が書いてあり、見た感じがすっきりして理解しやすい構成になっていました。満遍なく網羅されている教科書だと感じました。また、必ず章の終わりに「ふり返ってみんなで考えてみよう」というコーナーが設けられており、様々な社会問題を思考させる工夫がされている点が評価出来ると思いました。

桑原委員…教育出版は、口絵の3ページで「公民とは何か」ということを新高校1年生が後輩に説明をするというものがあり、私もそれを読んでなるほどと思いました。また、他の6社と違い、全6章で構成されています。「安心して暮らせる社会」という章を設定し、労働や社会保障、現代の日本経済の課題を取り上げている点が、特色があると思いました。

山口委員…「公民」が社会との関わりを重要視していく教科だとすると、学んだことが実際の社会にどのように関係しているかということを、分かりやすく示

しているのは、帝国書院でした。「クローズアップ」、「今を聞く」、「今を見る」というコラムには、現在の新しい動きや、社会で活動している人の取り組みなど、社会問題となっていることなどについて、分かりやすい題材が取り上げられていましたので、公民を理解するには役立つかなと感じました。

前田教育長…山口委員の発言に関連しまして、帝国書院は「クローズアップ」、「今を聞く」、「今を見る」において、現代的課題を子どもたちに考えさせたり、討論したりと豊富な課題が設定されているように感じました。

また、桑原委員も仰っていましたが、教育出版は他社よりも1章多く、「安心して暮らせる社会」ということで、少子高齢化による独居者の増加や、無縁社会の問題など福祉の問題を真摯に取り上げていました。

また、「これからの日本経済」では環境問題やグローバル化する社会を取り上げており、食糧問題、エネルギー問題、人口問題、水問題、原子力問題など、今の社会が直面している問題や課題を、レポート作成や討論形式で学習する形態が設定されています。身近な問題や課題を生徒がそのような学習活動で経験することが豊かな公民に繋がるのではないかと思いました。

東京書籍も最終章として、「よりよい社会をめざして」というものが位置付けられていました。内容は文部科学省などがよく言っている「持続可能な社会形成に関することの探究」などでした。

桑原委員…東京書籍は「くらしに生きる伝統文化」や「文化の多様性」など、割と生徒が共感を持てる内容になっているかなと思いました。また、日本文教出版は「現代社会で活躍する日本人」という部分で、ノーベル賞受賞者や宇宙飛行士、フィギュアスケートの選手などが載っており、大人になったらこういうようになりたいというような夢が持ちやすいと思いました。東京書籍、教育出版、帝国書院、日本文教出版は見開き2ページを1つのテーマとしており、左のページで学習の課題が提示されており、右のページで学習した内容を整理・表現するようになっており、勉強しやすいように作ってあると思いました。

山田委員…公民は難しい言葉や専門的な用語がたくさん出て来るのですが、その解説を巻末に掲載しているのは、東京書籍と教育出版でした。巻末の参考法令

集の日本国憲法に用語解説を付けているのは、東京書籍、教育出版、帝国書院、日本文教出版、清水書院でした。日本国憲法をそのまま読むことは子どもたちには難しいので、用語解説は生徒の理解力から考えると必要であると思いました。

前田教育長…関連しまして、用語の解説は、公民の学習には非常に重要になってくると思います。用語解説のページ数を調べたのですが、教育出版は24ページ、東京書籍が22ページ、育鵬社が32ページ、自由社が22ページ、帝国書院が26ページ、日本文教出版が25ページ、清水書院が30ページでした。見やすさという点では、教育出版、東京書籍、育鵬社が良かったです。何が見やすいかと言いますと、全社ルビがふつてあるのですが、日本国憲法の右側に解説コーナーがあったり、素地をカラーにしていたりと工夫がされていました。そのようなことを考慮して、用語解説が全般的に使いやすいかったのは、教育出版、東京書籍、清水書院、帝国書院でした。

和田委員長…自由社についてはあまり発言がなかったのですが、学習の仕方として、「何字でまとめてみよう」といったような呼びかけがとても多かったです。これは、日常生活の中で履歴書を書くにしても、大学受験で論文を書くにしても字数制限されることは多々ありますので、字数を制限して書くということのトレーニングが繰り返し行われているという点は評価出来ると思いました。

また、帝国書院では、「まちの活性化プランナーになってみよう」といった、より良い街づくりについて話し合うコーナーが設けられていました。これは震災後、街を復興させることがかなり大きな課題・テーマとなっているので、非常にタイムリーな項目だと思いました。

和田委員長…それでは、ここで候補をいくつかあげていきたいと思いますがいかがでしょうか。

前田教育長…評価が高かったのが東京書籍、教育出版、帝国書院だったと思います。この3社でいかがでしょうか。

和田委員長…では、公民は東京書籍、教育出版、帝国書院の3社を採択候補といたします。よろしいでしょうか。

(異議なし・全員賛成)

⑤種目 保健体育

和田委員長…続きまして、保健体育科の教科書について、意見を伺います。保健体育につきましては、4社の教科書があります。保健体育科の協議の観点としていくつかお願いします。

前田教育長…保健体育の教科書採択における内容選択の観点としては、「学習指導要領における改善事項、これは言語活動・伝統や文化に関すること・体験学習等ですが、それらの充実は図られているか」、「社会的な状況を反映した題材を取り上げ、生徒が興味を持って学習出来るよう配慮されているか」、「生徒自ら課題を設定し、解決に向けて取り組み、その過程を振り返る学習により、問題解決の能力を育成することに適した内容になっているか」、「健康・安全について生徒が興味関心を高め、科学的な理解を促すための資料が取り上げられているか」が挙げられます。

和田委員長…では、皆さんからのご意見を伺います。いかがでしょうか。

山口委員…どの教科書も章の始めに課題が明らかにされており、何をその章で学べば良いかが書かれていました。その中で特徴的だったのが、東京書籍では、「小学校ではこのようなことを学習しました」、「中学校ではこれを学習します」、「高校ではこういったことを学習します」というようになっていました。

観点とは少し関係がないのかも知れないのですが、各社の特徴を申し上げますと、東京書籍は全般にわたり抜けがなく良く出来ています。良かった点は、章末資料に「自転車安全利用五則」というものがあり、簡単に言えば自転車に乗る時に気を付けるべきことが書いてあったのですが、中学生は自転車でかなり活動しますので、実際の罰金が5万円以下といったようなことが全て載っておりました。これは、教える時にはとても良いかなと思いました。

また、「犯罪被害の防止」といった部分では見開き2ページを使っており、章末資料でも「地域安全マップの作成」をさせているところが良かったです。また、コンビニでも薬局でも簡単に薬が買えるようになりましたが、

薬の正しい使い方に見開き 2 ページを使っている点も良かったと思いました。その反面、少し残念だったのは、現在話題になっている熱中症についての記載が他社と比べると少なかつたように感じました。

次に学研ですが、東京書籍と同様に全般にわたり抜けがなく、スポーツから保健まで幅広く網羅されていました。良かった部分は、犯罪被害については防犯マップ作りがされていたことと、生活環境についても重視しており、廃棄物の部分で、生活排水とゴミのことについて他社は 1 つの章にまとめられていたのですが、学研は別に独立して書かれていました。特に、面白かったのが、家庭の排水に流した油や牛乳を、魚が住める環境にするには浴槽何杯分の水が必要かということが分かりやすく載っていました。これは生活環境を守るために覚えておくの良いことだと思いました。

大日本図書はどちらかというと怪我や事故などといった保健関係が充実していると思いました。特に良かったのは、交通事故の実態が 13 歳から 15 歳くらいの中学生を中心に見開き 2 ページの資料で載っていましたが、これは中学生にとっては大事なかなと思いました。ただ、一方で自転車での違反行為が載っておらず、犯罪被害の防止についても本当は必要なのではないかと思いました。怪我の手当てに関してはとても詳しく載っており、これは部活動などをする際にも知っていて損はないと思いました。

大修館書店はどちらかというと保健よりスポーツが充実していました。もちろん保健についても欠点はなく、犯罪被害の防止の部分では、問題となっている出会い系サイトや、ネットへの匿名の書き込みによる誹謗中傷なども、してはいけないこととして載っていました。少し残念だったのが、発展の部分に関連したとても良いことが書いてあるのですが、本文からの参照ページ数が抜けていたので、本文を見ているだけでは気付かないこともありました。

また、熱中症に関してですが、熱中症で一番まとまっていたのは、大修館書店であり、スポーツをする時にはどのような水分をどれくらいおきにどれくらいの量採ると良いのかを、とても具体的に書いてありました。その点では大日本図書も見開き 2 ページで細かく書いてありました。

桑原委員…東京書籍は心肺蘇生について写真で載せていたので、文章で示されるより

は実際に分かりやすいのかなと思いました。学研も喫煙、禁煙、飲酒、薬物などを乱用するところなようですということが、写真で載っておりましたので、言葉で言われるよりは感じやすいかなと思いました。また、学研には自然災害に備えてどのようなことをすれば良いのかということも載っていましたので、このようなことも現在の状況では必要だと思いました。

山田委員…中学生は心も身体も一番変化する時期なので、保健体育はとても重要だと思います。正しい身体の成長の理解や、異性をお互いに尊重して大切にすることや、低年齢化が危惧されている感染症や薬物や煙草などの危険なことを子どもたちにきちんと知識として教えることは大事だと思ひ、そのような観点から見ると、学研は中学生の年代に相応しい内容で、異性とどう向き合うかをきちんと捉えており、お互いの人間的な魅力を高め合えるような、対等な関係を築くことの大切さが書かれていました。

また、お菓子のようカラフルな薬物の写真を載せていたり、患者が書いた実際の手紙なども載っていたりと、薬物の怖さを子どもたちが分かるようにしている点が評価出来ると思いました。

また、東京書籍は満遍なく網羅されている教科書で、性情報への対処を具体的に示し、正しい行動が出来るように記していました。「やってみよう」というコーナーでは1分間の呼吸数や心拍数を自分で測ってみたり、とても緊張した時に身体にどのような変化が起きるのかを思い出してみたりと、子どもたちが実際に体験しながらという導入を考えている点が評価出来ました。

大修館書店では「心もかぜをひく」というページがあり、子どもたちが悩んだり苦しんだりしている時に相談出来る場所の具体的な連絡先などが載っている点が評価出来ると思いました。

前田教育長…今回保健体育科の改訂点の1つとして、「体育に関する知識」を「体育理論」と名称変更し、各学年3単位時間以上取り扱うことになりましたが、各社ともに体育理論の内容は充実しています。ただ、資料として扱うのであれば多くても構わないとは思いますが、分量の視点で見ますと、大修館書店と学研は、3単位時間で扱うには、やや多いように感じます。具体的には、「運動やスポーツの多様性」に関する内容についての各社のページ数を見

ますと、大修館書店が15ページ、東京書籍が6ページ、大日本図書が9ページ、学研が11ページとなっています。私の経験上は1単位時間で扱えるページ数は、2～3ページが妥当ではないかと思えます。

また、目次についてですが、学研だけが学習指導要領の表記と随分違いました。他社のタイトルが大きく、「運動やスポーツの多様性」、「運動やスポーツが心身にあたえる効果と安全」、「文化としてのスポーツ」などとなっているのに対して、学研は「スポーツの多様性」、「スポーツの効果と安全」など、「運動」という言葉が入っていませんでした。何か特別な編集意図があるのかと少し疑問に思っています。おそらく、文化としてのスポーツ、生涯スポーツなど、スポーツが全ての文化領域だという捉え方だとは思いますが、教科書としてはどうかと思いました。

それに関連しまして、大修館書店では「運動やスポーツの多様性」の部分を「魅力」と読み替えており、タイトルとしては分かりやすいものになっています。また、大修館書店と大日本図書では「身体への効果と心への効果」について、別立てにしていました。

和田委員長…それでは、ここで候補をいくつかあげていきたいと思いますがいかがでしょうか。私の感じたところでは、東京書籍、学研の評価が高かったように思われますので、この2社を採択候補といたします。よろしいでしょうか。

(異議なし・全員賛成)

⑥種目 技術

和田委員長…それでは、次に、技術科の教科書に移ります。技術科の教科書は、東京書籍、教育図書、開隆堂の3社の教科書です。技術科の協議の観点としていくつかお願いいたします。

前田教育長…今回の指導要領の改訂では、指導にあたり、これまで以上に実践的・体験的な学習活動を中心として、仕事の楽しさや完成の喜びを感じさせるとともに、生徒が自分の生活に結び付けて学習出来るように、問題解決的な学習を一層充実することとされています。

そこで、技術科では、「問題解決的な学習内容や言語活動の扱い」、「実習

での活用のしやすさや見やすさ」などが教科書選定のポイントになるのではないかと考えています。

和田委員長…私から申し上げますと、かつて私が教員をしていた頃、技術を教えていたことがありましたが、今回、技術の教科書を見て、当時とあまりに内容が変わっており、驚きました。時代の流れだと思うのですが、当時は木工・製図などが中心でしたが、現在の教科書では、特にエネルギー変化や情報などの、当時はなかった部分がかかなりウェイトを占めていました。また、生物の育成についても確か、なかったように思います。

そのような感想を持ちましたので、最初に述べさせていただきました。

では、皆さんからのご意見を伺います。いかがでしょうか。

桑原委員…教育図書の目次の部分に分類されている「技術分野で何を学ぶか」では、「材料と加工に関する技術」に始まり、エネルギーや情報などが載っており、そのようなものまで技術科で学ぶのかと私も驚きました。

開隆堂の最後の部分には、「未来の扉を開くために技術がある」といった言葉が載っておりまして、これは無味乾燥にならずに、非常に夢があって良いと思いました。

東京書籍では、口絵の最初の部分に「確かな生きる力をつけるための技術」といったような文章が載っておりました。同様に家庭科の教科書でも口絵の最初に「生きる力を培っていこう」という文章が載っていまして、お互いの教科書に虹の絵が書いてあり、合わせると1つの絵になっており、とても面白く思いました。

山田委員…東京書籍は、最初に見開きで「実習の安全」というページを設けて、作業で怪我をしないように細かい注意や、実習後の片付けなどが書かれているということが心構えとして良いと思いました。また、各単元に目標とチェックがセットになっており、目当てがはっきりしていることと、学習のまとめがあり、生徒が自分の社会生活に結び付けて考えるようなコーナーが設けられている部分が良いと思いました。

開隆堂は表紙の裏に、「さあ、技術の扉を開こう」という言葉が載っており、全体的に楽しい教科書となっていると思いました。実際に作る実習の例がLEDスタンドや手作りスピーカーなど、私たちの頃は本立てだった

と思うのですが、生徒たちが作って、実際使えるようなものが取り上げられている点が良いと思いました。

前田教育長…教育図書は、すっきりとした分かりやすいレイアウトで、好感が持てました。特に実習例では、大きな写真を多数掲載したり、イラストを使った説明図版を使用したりして、中学生も活動しながら見やすいものになっていると思います。

昨年度、橘中学校で技術科の発表会がありまして、そこでトマトの栽培について発表されましたが、栽培の仕方を教えてもらう時に、写真や、手順が分かりやすくなっているものが扱いやすいと思いました。生物育成に関する技術では、トマトの栽培を含めて、実習時の活用のしやすさが非常に大事だと思います。その点では、東京書籍には開いたら1ページに実習の1つが掲載されているので、見やすかったのですが、少し手順が分かりにくい表現だと思いました。教育図書は具体的な手順が写真や図で分かりやすく示されていると思います。開隆堂も見開き1ページでまとめられているのですが、少し字が小さく、情報量が多いように感じました。

山口委員…教育図書は実際に作ってみる物の題材が面白かったです。ロボットなども実際に作って、ロボコンのようなものも普通の中学生が行うのかと驚いたのですが、特に良かった点は、バリアフリーとユニバーサルデザインの部分が載っており、これは、これからの社会を考えると技術科で習う必要があると感じました。また、東京書籍は、自転車の保守点検の方法が具体的に載っており、これは中学生には大事だと思いました。東京書籍と開隆堂には電気機器の保守点検が細かく載っており、故障した際の直し方など、女子も覚えておく必要があると思いますし、良いテーマであると感じました。

前田教育長…原子力・電力の扱いですが、東京書籍も写真入りの表で特徴と課題を比較して取り扱っているのですが、教育図書が充実しているように感じました。原子力発電所の仕組みについて図と解説が載っており、水力・火力・原子力発電の長所と短所を比較した表があり、非常に見やすくて良いと思いました。

和田委員長…開隆堂は他社と比べて、コンピューターについての扱いがかなり充実して

いるように思いました。最近の子どもと私たちの世代とのコンピューターに対する慣れが、このようなところで違うのだなと感じました。

また、教育図書で生物育成の部分でペットボトルや袋で大根を作るなど、庭や畑を持っていない人でも栽培が出来るようなことが細かく扱われており、良いと思いました。

東京書籍では、山口委員が仰っていたように、最後の部分でロボコンについて、かなり大きく取り上げられておりまして、子どもたちの学習意欲を起こすと感じました。

和田委員長…では、今日は協議ということなので、各社の良い部分を確認し、8月12日に、採択の決定をしたいと思います。

⑦種目 家庭

和田委員長…それでは、次に、家庭科の教科書に移ります。家庭科の教科書は、東京書籍と教育図書と開隆堂の3つの教科書です。家庭科の協議の観点としていくつかお願いします。

前田教育長…今回の指導要領の改訂では、技術科と同様に、指導にあたり、これまで以上に実践的・体験的な学習活動を中心として、仕事の楽しさや完成の喜びを感じさせるとともに、生徒が自分の生活に結び付けて学習出来るように、問題解決的な学習を一層充実することとされています。

そこで、家庭科では、問題解決的な学習内容や言語活動の扱い、実習での活用のしやすさ・見やすさ、などが教科書選定のポイントになるのではないかと考えています。

和田委員長…今回、家庭科の教科書を見ると、幼児の発達などにかかなりのページを割いています。私はなぜ、家庭科に幼児のことが載っているのかが疑問であり、勉強させていただきましたが、文部科学省の指導要領を読んでもあまりはつきりしなかったです。

ところが昨日、私には2歳と1歳の孫がいて、2歳はこれまで末っ子だったのですが、従兄弟の1歳が来て、見ていると、最初は自分より小さい人間をどう扱って良いか分からずに警戒していました。ところが1日一緒に過ごすと、人間関係をそこで作り、抱っこまでするようになっていま

した。そこで、この単元の目的は、こういうことかと思いました。

では、皆さんからのご意見を伺います。いかがでしょうか。

桑原委員…小田原市の子育て支援コンサートに出させていただいた際に、周りは赤ちゃんばかりで言葉も通じないのですが、中学生がみんな赤ちゃんを抱っこして、言葉は通じないけれども、歌を歌ったので赤ちゃんが分かってくれたと喜んでいましたので、中学生にとってこのような場面はとても大事なのだなと思いました。

前田教育長…今のことに関連しまして、実際に城北中学校では桜井保育園の幼児を抱っこして、災害時に緊急避難するという訓練練習を先日行っていました。これは家庭科の一環でもあると思いました。

山田委員…色々な項目で見比べましたが、まず震災については、東京書籍では、寝ている時に家具が倒れないようにする、不安定な家具を固定するなどの対策が載っていました。教育図書では、非常持ち出し袋の中身についてきちんと書いてあり、開隆堂はそれに加えて、非常時の家族との連絡の仕方や集合場所の確認、近隣の人々との良好な関係を作ることがとても大事だと書いてありました。

また、調理のことで一番分かりやすかったのは東京書籍でした。同じページに衛生面の注意や調理メモなどが載っており、そのページを見れば全て分かるようになっており、絵や写真も分かりやすいと感じました。

消費生活のトラブルという部分についてですが、中学生も巻き込まれることがありますので、中学生としてのトラブルについて見比べました。東京書籍では中学生のトラブルの事例として、「雑誌の広告を見て靴を頼んだらサイズが合わなかった場合」や、「携帯電話のコミュニティサイトで高額な請求をされた場合」など、具体的なことが書いてあり、それについてのアドバイスも載っていました。開隆堂はインターネットや携帯電話でのトラブルの防止や、ロールプレイングで悪質商法を取り上げていました。教育図書は若者のトラブル例として、あえて中学生として限定はされていませんでした。

和田委員長…山田委員のご意見にもありましたが、東京書籍は調理の部分で、例えばしょうが焼きやハンバーグの付け合せの料理が下に載っており、その点は評価

出来ると思いました。

桑原委員…教育図書は、口絵に年中行事が載っており、1年間でこのようなことがあるというのが、分かりやすいと思いました。東京書籍は、「どんな自分になりたいかをチェックしよう」という部分があり、堅苦しい勉強ではなく、面白いと思いました。

山口委員…私が学生の時は、家庭科は習わなかったので、家庭科の教科書を興味深く読ませていただきました。今ブームになっている浴衣のことが書いてありましたが、帯の締め方まで具体的に書いてあったのが教育図書でした。他の2社は和服のことは書いてありましたが、帯の締め方までは書いてなかったもので、和服のことを紹介するのであれば、そこまで載っているのが良いと思いました。

前田教育長…和服のことに關してですが、伝統や文化で和服が取り上げられるようになったのですが、教育図書は身近な和服から色々な種類のものが載っており、その中に浴衣も載っていきまして、浴衣の着用の方法を分かりやすくした絵と文で説明されていました。また、発展として世界の民族服も載っていました。東京書籍は、洋服と和服の違いから、和服の文化について扱っており、また、西陣織や加賀友禅などの、地域に伝わる和服を写真と地図で紹介していました。開隆堂も浴衣を取り扱ってました。

和田委員長…では、今日は協議ということなので、各社の良い部分を確認し、8月12日に、採択の決定をしたいと思います。

⑧種目 英語

和田委員長…それでは、最後に 英語科の教科書に移ります。英語科の教科書は東京書籍、開隆堂、学校図書、三省堂、教育出版、光村図書の6社です。まず、採択するにあたっての協議の観点としていくつかお願いします。

前田教育長…英語科の教科書採択における内容選択の観点としては、3つございます。

1つは「コミュニケーション活動における工夫」、2つ目は「学習内容の精選・配列」、3つ目は、「使いやすさと見やすさ」です。

コミュニケーション活動というのは、どのようなものなのか確認いたしますが、コミュニケーション活動とは、英語を聞く・話す・読む・書くと

いう4つの活動を通して、自分の考えを相手に伝えたり、相手の考えを理解したりする活動です。

和田委員長…では、皆さんからのご意見を伺います。いかがでしょうか。

山口委員…英語の教科書をどうやって自分なりに見ていこうかと考えましたが、とても難しかったです。他の教科は割りと横並びの進み方をしているのですが、英語に関しては、そのような部分もあるのですが、各社の特色が出ていると思いました。自分なりに見てそれぞれの良いところを考えたのですが、三省堂ではレッスンのパートごとに左下にポイントが提示されていました。ただの英文のポイントが書いてあるだけでなく、そこに例えば現在進行形などの日本語での名前も提示されており、その下にドリルがあるのですが、そのドリルが一貫して同じ文を聞かせて、復唱させて、言わせて、書かせるという、全部同じパターンで同じ題材を徹底して学ばせている点が特徴的でした。他社もちろん、聞かせて、言わせて、書かせるということはさせるのですが、それぞれに文の中身が違っていました。三省堂のように同じ文を繰り返し学ぶという形のほうが、覚えるのかなという感じはしました。

桑原委員…教育出版は上の段に本文が書いてあり、下の段に言語材料と活動と、はっきりと分けて書いてあるので、使いやすいかなと思いました。また、自分で学習したくなるように「辞書をひこう」という部分もありまして、良いと思いました。また、リーディングの英語のところだけ、字が大きく書いてありまして、最後に重要構文の復習リストがまとめて書いてあり、それも勉強しやすいと思いました。

学校図書では、実践的なコミュニケーションを体験するという角度で構成されていまして、自己紹介の仕方、挨拶の仕方、自分のことを相手に伝える方法などの、文法だけでなく実際に役に立つ勉強が出来るかなと思いました。

光村図書は工藤直子氏の日本の詩の英訳がありまして、普通は英語から日本語にすることが多いのですが、工藤直子氏は中学生が好きな詩人ですので、それも面白いやり方だなと思いましたのと、英語の教科書なのですが、日本のお祭りのことも随分と書いてありました。また、最後に英語で

遊び歌がたくさん載っておりまして、歌を歌いながらだと結構簡単に英語は覚えられるので、それも良い方法かなと思いました。

山田委員…私たちの頃は「This is a pen」だったので、各社とも導入が分かりやすく、楽しいと思いました。東京書籍は、とても分かりやすく、1年生の「Warm-up」のコーナーでは、小学生から中学生になった新1年生が楽しんで入門出来るような、楽しいイラストで挨拶やアルファベット、数字などが取り扱ってありました。各ページの下には基本文や基本練習、役立つ単語などがあり、とても学習しやすい構成になっていると思いました。各ユニットには「Plus」というページがあり、身近な題材を使って発展的な学習が出来るようになっており、無理なく次に進める工夫があると思いました。

三省堂は、1年生のアルファベットのページにパソコンのキーを使っているところが子どもたちには分かりやすいのではないかと思います。各学年の最後の付録には、「絵でわかる英語のしくみ」というものがあり、イラストで英語の文法が分かるという内容になっており、とても良いと思いました。3年生の教科書で、ピュリッツァー章を受賞した「ハゲワシと少女」という写真があるのですが、そのリーディングがあり、国際社会への問題を取り上げている点が評価出来ると思いました。

学校図書は、イラストも文字もすっきりしており、読みやすく、レッスンごとのレビューのページで読む・聞く・書くの基本が身に付くようになっていくということと、英語の歌が各学年3曲ずつ取り上げられているのが特徴で、英語の歌を歌うのはイントネーションや単語の意味を理解しやすく、良い試みだと思うので、各学年3曲も載っているのはとても良いと思いました。リスニングCDも聞いてみましたが、きれいなネイティブの発音だったので、子どもたちもきれいな英語が話せるのではないかと思います。

前田教育長…教育出版は、全体的な配列は良いと思います。ページごとに「聞くこと」、「話すこと」の練習が設定されており、既習内容を繰り返し学習出来るようには、なっています。ただ、「Task」のページで、4技能をバランスよく理解出来るようにはなっていますが、全般的に生徒にとっては難しい取り

扱いになっているように感じました。結果的に、初期の段階で英語嫌いの生徒を生み出すことに繋がる可能性があるのではないかと思います。

光村図書は、小学生の時から馴染みのある遊び歌などが載っており、工夫されていて良いと思いました。ただ、ユニットごとにアクティビティが設定されておりますが、全体的に難しい取り扱いで、生徒にとってはレベルが高いかと感じました。

学校図書は、レッスンごとの「Talking Time」が、コミュニケーション活動を積極的に行うのに分かりやすい題材かなと思いました。そこから、ステップを発展させる形になっており、また、小学校の外国語活動との関連として、見開きページが小学校の活動を意識した、自己紹介、身の回りの英語、挨拶など、言い回しやフレーズが分かりやすく提示されています。小学校からの流れを意識したリードとなっていると思います。

東京書籍も小学校との関連を意識しているように感じました。見開きに世界の挨拶が載っており、また、教室にある物や色、曜日などを扱っていますが、学校図書よりは少ないように感じました。

三省堂も世界の学校の文化と様子なども載っていますし、音楽でカーペンターズの「Sing」なども載っており、それでコミュニケーションを楽しむということで、面白い設定だと感じました。

和田委員長…教育長からもありましたが、教科書の作りが小学校からの繋がりを配慮して編集しているのではないかと思ったのですが、東京書籍の「Warm-up」のコーナーが他社と比べて充実していたように感じました。曜日や色などが導入としてまとめて載っているのが良かったと思いました。また、東京書籍の教科書を全て読みますと、非常にストーリー性がありましたので、抵抗感がなく読めました。

また、学校図書は東京書籍と同様に導入が充実していたことと、「Review」、「Action」、「Check It Out」なども構造化されており、繰り返し同じことが行われている点がとても学習しやすいと思いました。現代は関係性を捉えることが苦手な子どもたちが増えていますので、構造化は今後の学習にはとても重要な意味を持つていくと思いますが、学校図書は明確に構造化が図られていたので、評価をしたいと思いました。

和田委員長…それでは、ここで候補をいくつかあげていきたいと思いますがいかがでしょうか。

前田教育長…皆さんからの意見をまとめると学校図書、東京書籍、三省堂の評価が高かったと思います。この3社でいかがでしょうか。

和田委員長…では、英語は学校図書、東京書籍、三省堂の3社を採択候補といたします。よろしいでしょうか。

(異議なし・全員賛成)

(9) 委員長閉会宣言

平成23年8月25日

委 員 長

署名委員（山田委員）

署名委員（前田委員）